

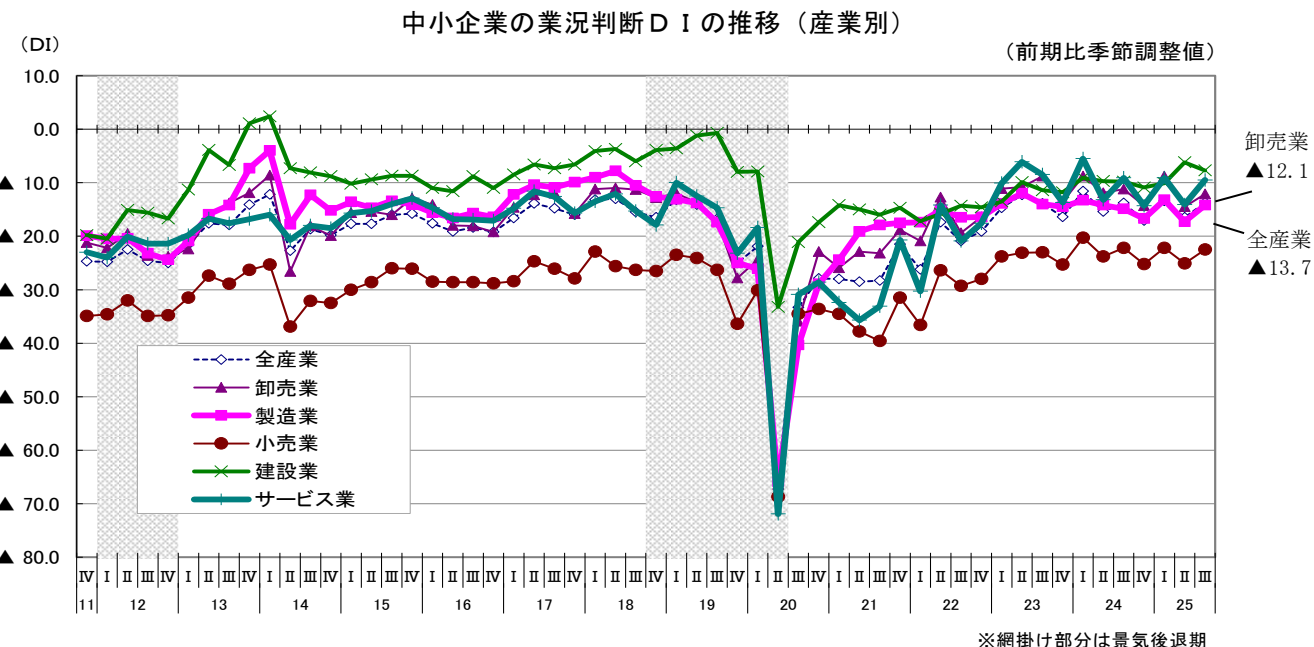
2025年9月
(前期比季節調整値版)

第181回 中小企業景況調査報告書 (2025年7-9月期) 〈卸売業編〉

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合-「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

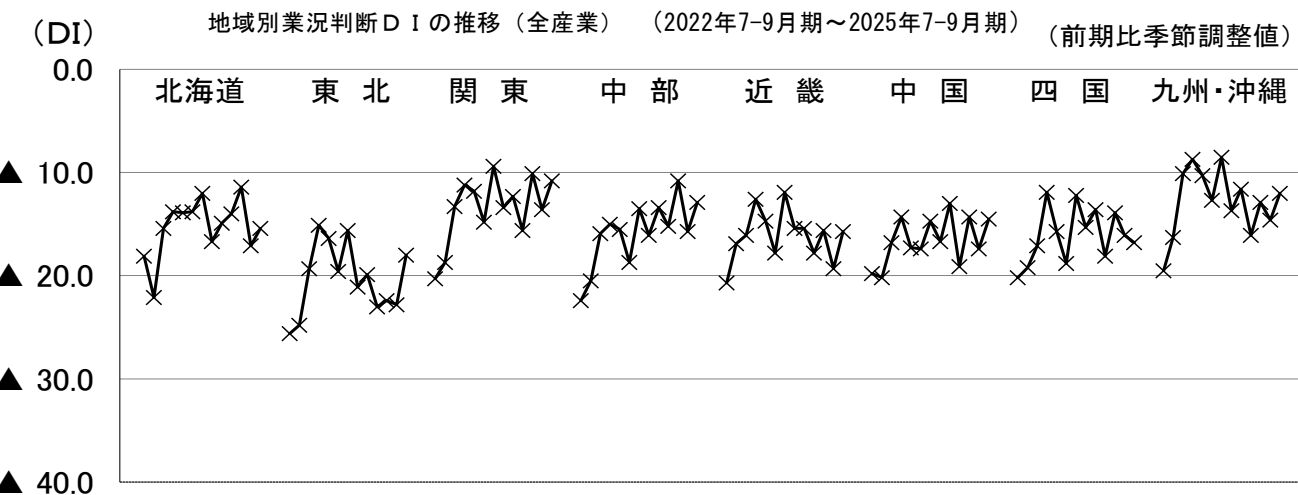
独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
E-mail: chosa@smrj.go.jp
https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇した。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇した。(▲16.5→▲13.7)



〈地域の業況〉

東北、近畿、中国、関東、中部、九州・沖縄、北海道でマイナス幅が縮小し、四国でマイナス幅が拡大した。



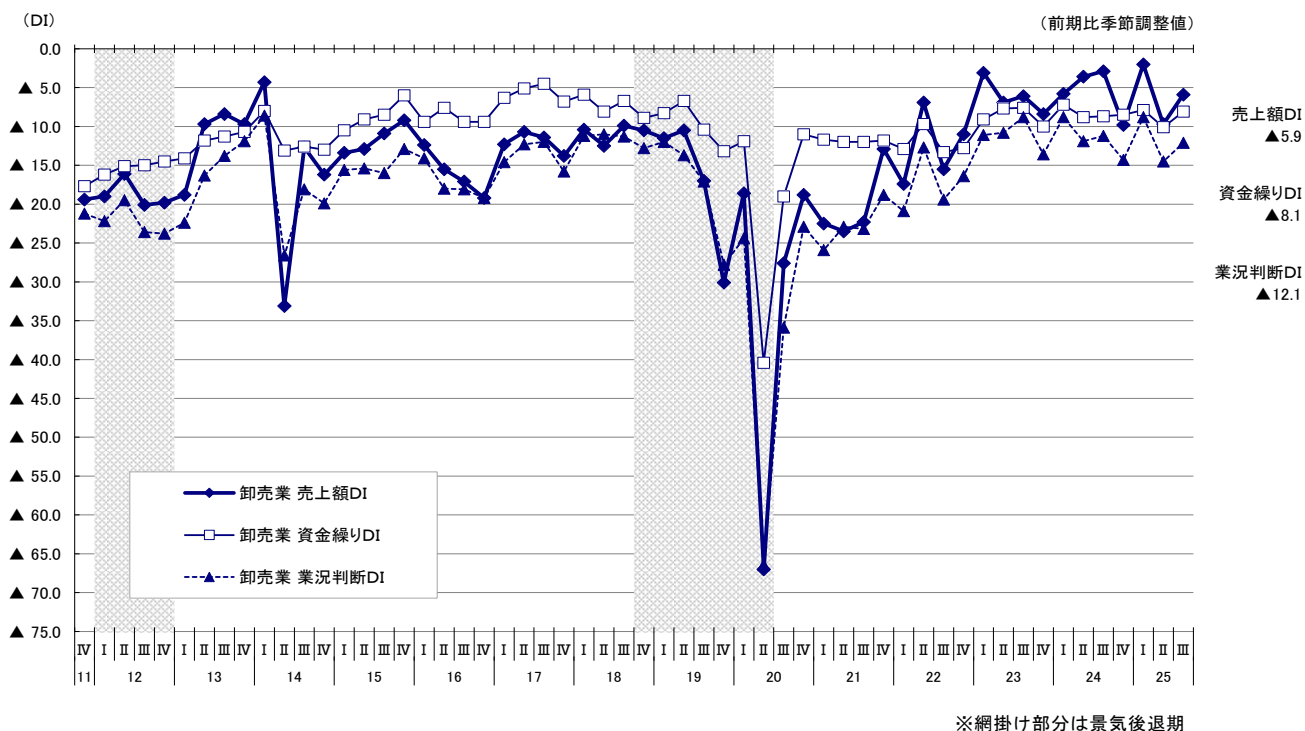
(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合。

1. 卸売業の動向

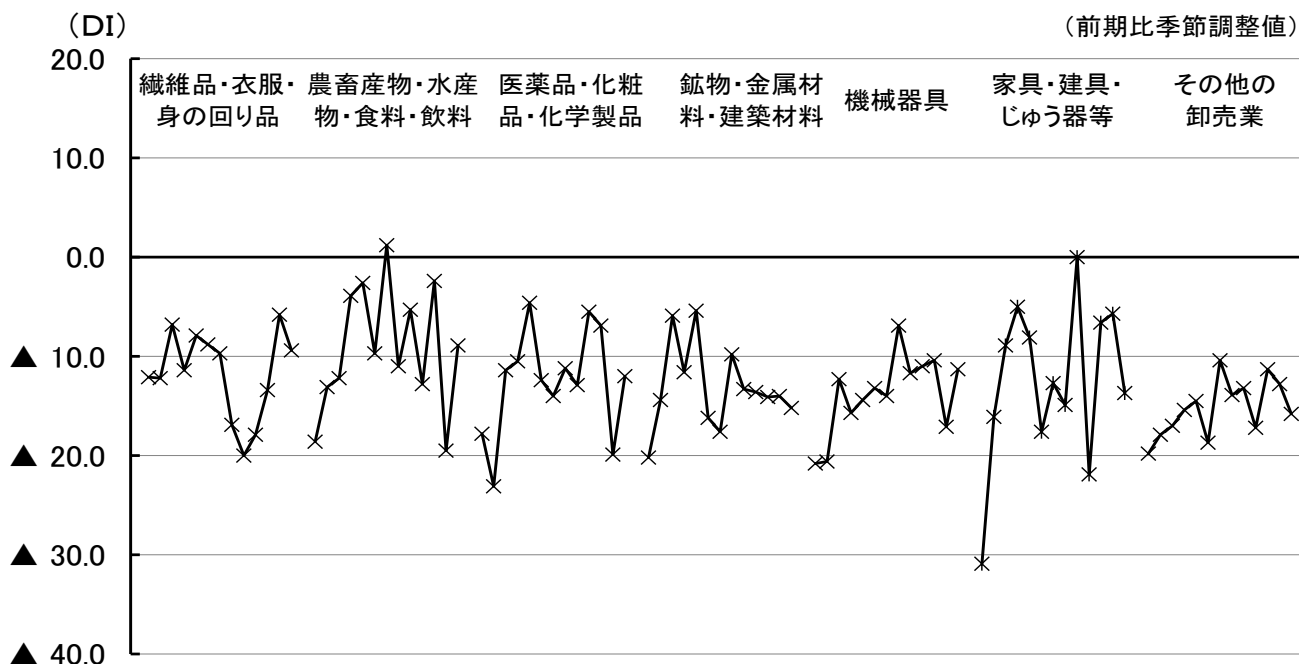
卸売業の業況判断DIは、▲12.1(前期差2.4ポイント増)と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。
売上額DIは▲5.9(前期差3.8ポイント増)、資金繰りDIは▲8.1(前期差2.0ポイント増)といずれもマイナス幅が縮小した。

業況判断DIを業種別に見ると、農畜産物・水産物・食料・飲料で▲8.9(前期差10.6ポイント増)、医薬品・化粧品・化学製品で▲12.0(前期差7.9ポイント増)、機械器具で▲11.3(前期差5.8ポイント増)とマイナス幅が縮小した。

また、家具・建具・じゅう器等で▲13.7(前期差8.0ポイント減)、繊維品・衣服・身の回り品で▲9.4(前期差3.6ポイント減)、その他の卸売業で▲15.8(前期差3.0ポイント減)、鉱物・金属材料・建築材料で▲15.2(前期差1.2ポイント減)とマイナス幅が拡大した。



卸売業 業種別 業況判断DI (2022年7-9月期～2025年7-9月期)



2. 卸売業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、卸売業全体で22.7%（前期差2.1ポイント増）と増加した。
（単位：％）

	2024年 7-9月期	2024年 10-12月期	2025年 1-3月期	2025年 4-6月期	2025年 7-9月期
繊維品・衣服・身の回り品	17.6	14.0	15.4	14.7	20.5
農畜産物・水産物・食料・飲料	17.0	20.7	20.2	21.1	24.7
医薬品・化粧品・化学製品	9.8	8.2	21.3	22.6	13.1
鉱物・金属材料・建築材料	25.8	27.9	18.2	20.3	23.7
機械器具	23.9	26.6	18.9	25.4	27.6
家具・建具・じゅう器等	27.3	27.3	26.8	26.8	22.8
その他の卸売業	13.7	15.9	15.6	18.1	20.1
卸売業計	18.6	20.2	18.6	20.6	22.7

3. 卸売業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、「需要の停滞」が1位にあげられており、「仕入単価の上昇」が2位、「人件費の増加」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	需要の停滞 (22.4%)	仕入単価の上昇 (21.8%)	人件費の増加 (12.4%)	従業員の確保難 (9.5%)	人件費以外の経費の増加 (5.5%)
前期 (4-6月期)	仕入単価の上昇 (24.7%)	需要の停滞 (20.4%)	従業員の確保難 (10.9%)	人件費の増加 (9.3%)	人件費以外の経費の増加 (5.3%)

4. 卸売業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、中国、九州・沖縄、北海道、近畿、東北、中部、関東でマイナス幅が縮小し、四国でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

卸売業

（2022年7-9月期～2025年7-9月期の動き）

（前期比季節調整値）



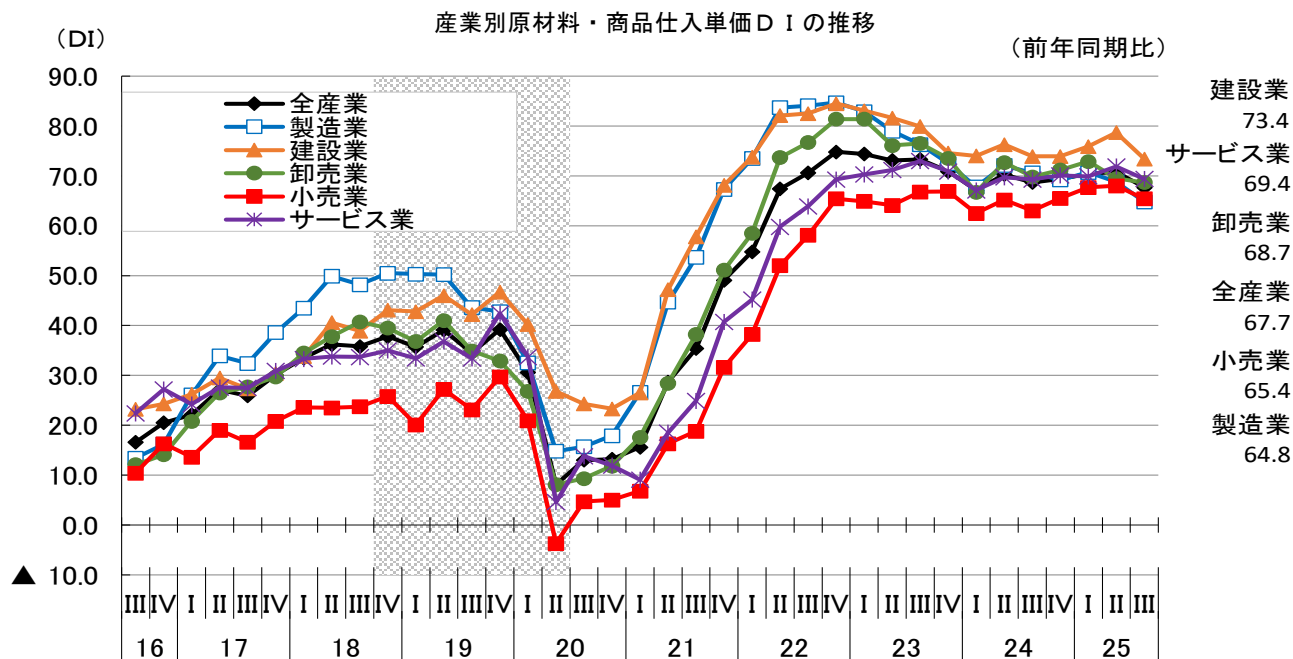
（注）1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。

3. 業況判断DI＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

5. 卸売業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、68.7（前期69.5、前期差0.8ポイント減）とやや低下し、2期連続してプラス幅が縮小した。



【調査対象企業のコメント】

- 水産関係の受注が低下している。暑さの為か、7月は商品の動きが悪い。特に食品原材料部門が悪化。観光客が増えても、ホテル代が高いと言われている。[道南・道央 その他の食料・飲料卸売業]
- 売上減少に歯止めかからず、かつ農業従事者の高齢化及び高温により、入荷数量減少が継続しており、仕入、販売とも縮小が続いている。運賃等経費が増加しており業況は厳しい状況が続いている。[秋田 野菜卸売業]
- 野菜の産地で夜の気温が下がらず、昼間との寒暖差が少ないため、野菜の生育に大きな影響が出ている。また、猛暑にて野菜の種類によっては成長過程で腐る事態に陥っている。[神奈川 野菜卸売業]
- 物価高、社会保障などの税収増による経済不安が多く、1月以降の消費控えが顕著。消費サイクルの悪化や低価格商品への移行などの消費変化が収まらず、生活への不安から節約志向品、サプリメントには大きく影響。[愛知 化粧品卸売業]
- 在庫調整に進展、インバウンド需要増、堅調な設備投資等環境が好転し、前年度に比べ引き合いは増えている。今後は金利や賃金の上昇等によるコスト増加、米国関税の影響等に注視したい。[大阪 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）]
- 取扱商品の値上げにより売上高は上昇しているが、販売点数は苦戦している。人員不足が負担になっている。[島根 酒類卸売業]
- 人口減少と高齢化で車輦台数が減ってきている。当面は不変であるが、将来的には下がっていくと見込まれる。[愛媛 自動車部分品・附属品卸売業（中古品を除く）]
- 地元の生鮮スーパーや個人店などが、大手総合スーパーなどの進出により衰退した。大手さんの取り引き先は決まっていて、我々には新たな取引先がない状況にある。[宮崎 果実卸売業]

【調査要領】

- 調査時点：2025年9月1日時点
- 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,826のうち有効回答数17,956（有効回答率95.4%）（産業別の動向は、卸売業の有効回答数1,065を集計したもの。）